

SUMMARY OF DOCTORAL THESIS

Name: MOHD. NAZRUL ISLAM
モハメド ナズルル イスラム

Title: MARKET REFORM AND FARM LEVEL INORGANIC FERTILIZERS USE IN BANGLADESH
バングラデシュにおける市場改革と農家の化学肥料の利用

バングラデシュでは、肥料の使用には異なる形態があり、第一は尿素、第二はリン (TSP)、第三はカリ (MP) で、その国の年間総肥料消費量の平均 90%以上となっており、肥料に関する政策の中心は、ほぼこれらの肥料となっている。はじめに、これらの肥料は、多く補助金が与えられている。その投入に補助金を与える予算制限のために、また非効率な方法として、その関係政府機関は、投入の補助金を次第に減らし、バングラデシュにおける生産市場の民営化を促進するよう助言した。結果として、一連の民営化と規制緩和と政策は、1978 年以来構造調整政策として知られており農業投入市場において実行し、1992 年に終了した。しかし、多くの先行研究は、全体の肥料消費について行い、バングラデシュ農業生産性に肥料市場改革を引き起こしたことを明確にした。バングラデシュでは、その国で消費される主要な三つの肥料をめぐる議論において見誤らせ、一連の構造調整政策のために破壊された時代において議論は決着するどころか盛んになった。肥料市場改革で企画されたその基本的な政策方法は、肥料価格補助金にかわって生産価格支持計画である。しかし、この政策の有効性は、定着しなかった。バングラデシュの市場自由化後、尿素窒素使用は劇的に増加し、他方、リンとカリの使用は、極端に減少した。結果として、リンとカリの需要の減少は、バングラデシュにおいて時事問題となり、勢いを得た。

以上の背景から、本研究は、構造調整政策の影響より非有機肥料に起こりうる破壊の時代および肥料市場におけるその影響を調査研究することを主に企画した。また、国家レベルでの化学肥料の動態的局面、肥料需要に関する生産価格支持政策の効果、農家レベルでの窒素、リン酸、カリ使用の研究、農家レベルでのこれらの肥料使用の決定要素を注意深く評価し、この国での緑豆生産の効率性を計測していく。それで明らかになったことは、バングラデシュで使用される非有機肥料のために正しい政策を練り上げる研究者および政策作成者に支援するであろう。

この研究の知見は、1987-88 年に発生した構造調整政策を原因とする肥料消費の起こりうる破壊の時代を明確に指摘した。肥料市場改革は、尿素よりむしろ他の肥料のために逆に生産的となった。尿素を除いてリンとカリの消費と価格の不安定性は、市場改革後増加した。リンとカリの取引のための個別分野の関係は、結局、輸入またはトップレベルで寡占またはカルテルの構造に転化し、結果としてこれらの肥料価格は、市場改革後に急激に上昇した。これらと比べると投入価格補助金の代わりに産出価格支持計画は、国内の非有機肥料を消費するために何らかの重要な役割を果たすことが出来なかった。さらに、この研究は、作物生産の価格支持計画を通してよりその価格を下落させることを通じてリンとカリの使用を増大させることに効果的であることを明らかにした。農家が過剰な尿素を使用していたことが、農家レベルの分析からも発見した。奨励された一回当たりリンやカリの量がより少ないことと尿素は農家レベルで緑豆の生産を制限した。肥料の異なる種類の農家需要分析の結果は、農家レベルでのリンやカリの利用が、農家レベルでそれらの価格を下げ、尿素価格を引き上げることを同様に行うことによって増大することが出来るということを示した。それとともに、肥料使用バランスに関する広大な計画は、農家レベルでこれら二つの肥料の使用増大を可能にし、過剰な尿素使用傾向の減少を可能にする。

それゆえ、リンとカリは、尿素と比べて比較的価格安にすべきである。輸入またはトップレベルで競争に保険をかけることにより貿易業者に販売し、または、注意深くその構造を設計することによりたとえ、いくらかの範囲で可能な輸入補助金が与えられるかまたは (尿素のように) 政府代理機関により全ての多くの肥料を輸入出来たとしてもである。尿素の価格形成、生産、調達そして流通は、公的分野で調整され、バングラデシュ政府は、尿素の価格を引き上げ、特別の利益を得ることが出来る。そして、尿素で得たこの特別な利益は、輸入または小売段階のリンとカリの価格補助金として提供すべきである。